

2011年は明治学院の礎を築いた伊深梶之助先生の生誕160年でした。明治学院同窓会ではこの年、これを記念して講演会・親睦会を行いました。このチラシはその折に作成されたものです。先生の胸像が記念館の1階に設置されています。また、先生の故郷会津若松の会津藩校日新館にも銅像が設置されています。

明治学院同窓会主催

「井深梶之助先生生誕160年」記念行事のご案内

今年は明治学院の礎を築いた井深梶之助の生誕160年にあたります。白金校舎図書館では「一緒に勉強したかった先輩たち ～井深梶之助 生誕160年～」と銘打った展示も行われております。井深梶之助は明治学院初代総理ヘボンの後をうけ、2代目総理となりました。また、明治学院同窓会の初代会長でもありました。同窓会でもこれを記念して、記念行事を企画いたしました。星亮一氏の講演会、親睦会を予定しております。是非お誘い合わせの上で参加ください。



井深 梶之助

Kajinosuke Ibuka 1854-1940

幕末の会津に生まれ「戊辰戦争」の戦火の中を
生きた井深梶之助。

壮絶な籠城戦の舞台となった若松城(鶴ヶ城)

では、砲術を指南する山本八重とともに闘っています。やがて梶之助は、米国人宣教師、ブラウンと出会い、師として学びながら、その後の生涯をキリスト者として歩きました。

1891年、初代明治学院総理ヘボンの篤い信頼を受けて2代目総理に就任、今日に続く明治学院の礎を築きました。

講演者 星亮一氏

宮城県仙台市生まれ。戦時中、仙台市立上杉山通小学校から宮城県丸森町小斎小学校に疎開、仙台に戻ったが、父親の転勤で仙台市立愛宕中学校から岩手県一関市千厩中学校に転校、岩手県立一関第一高校に学び→東北大学文学部国史学科→日本大学大学院総合社会情報研究科修士課程修了。

新聞記者を志望し、先祖のルーツである福島県の新聞、福島民報社記者になる。会津若松に転勤し、会津藩と出会う。

その後、福島中央テレビ報道制作局長を経て独立、歴史作家の道を歩む。東北史学会会員、日本文芸家協会会員、現在は福島県郡山市在住。

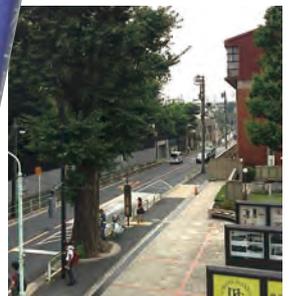
明治学院同窓会主催

「井深梶之助先生生誕160年」記念行事

2014年10月11日(土)

- 11:00 開場
11:30 第1部 記念礼拝
合唱等の演奏を予定
第2部 星亮一氏による講演会
13:00 第3部 懇親会(星亮一氏もご参加の予定)
パレットゾーン or 本館10階大会議場(予定)
参加費 1,500円(軽食を用意いたします)

協力= 明治学院大学キリスト教研究所



井深総理が残した正門前の大銀杏。残念ながら腐食による倒木の危険があるため、2023年7月に伐採されました。



明治学院同窓会
Meiji Gakuin Alumni Association

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37 TEL 03-5421-5190 / FAX 03-3441-0970
<http://www.meijigakuin-dosokai.jp/>

お問合せは…

事務取扱時間 10:00 ~ 16:00

井深梶之助略年表と相関図

1854 会津若松に生まれる。

1863 (10歳) 「日新館」入学

1868 (15歳) 元服し「梶之助」と改名。
戊辰戦争での若松城ろう城戦に参加。
若松城開城。

会津時代

1870 (17歳) 東京に出て藩洋学塾に。

1871 (18歳) 横浜修文館の学僕となり
S. R. ブラウンらに英語を学ぶ

横浜時代

1872 (19歳) 横浜にJ. H. バラ宣教師を訪ねる

1873 (20歳) ブラウンより洗礼を受ける。
ブラウン塾開設。梶之助も生徒となる。

1875 (22歳) 梶之助らが日光方面に伝道に赴く。

1877 (23歳) 東京一致神学校開校し、一期生として入学。

築地時代

1880 (27歳) 東京麹町教会牧師、東京一致神学校助教となる。
水上勢喜子と結婚。

1886 (33歳) 東京一致神学校、東京一致英和学校、同予備校の合併と明治学院の名称決定。
神学部の教授となる。

明治学院総理時代

1889 (36歳) ヘボン、明治学院初代総理、梶之助、副総理となる。

1890 (37歳) 渡米してユニオン神学校に留学。

1891 (38歳) ヘボンの後をうけ、明治学院第二代総理となる。

1905 (52歳) キリスト教関係国際諸会議出席のため1年余り欧米歴訪。

1921 (68歳) 明治学院総理職を辞し、名誉総理となる。

1940 (87歳) 6月24日没。
6月26日、明治学院葬が行われる。

●柴 四郎(学友・東海散史)
会津日新館、東京土佐藩英学塾
斗南藩塾

●山川 健次郎(学友・東大総長)
会津日新館、東京土佐藩英学塾
会津日新館、東京土佐藩英学塾

●奥野 昌綱(ブラウン先生の日本語教師)
修文館時代、東京一致神学校

●真木 重遠(ブラウン先生弟子)
修文館時代

●S. R. ブラウン(外国人宣教師)

●星 享(修文館改め啓行堂館長)

●中村 敬宇(日本人教師)
中村敬宇の一篇の文章が、
キリスト教研究のきっかけになる

●嶋田 三郎(学友・横浜毎日新聞社
ブラウン塾)

●雨森 信成(学友・パーソン下生)
ブラウン塾、東京一致神学校

●山本 秀煌(学友・ルーミス門下生)
ブラウン塾、東京一致神学校

●藤生 金六(学友・会津若松米町教会初代牧師)
ブラウン塾、東京一致神学校、野口英世に授洗

●本多 庸一(学友・青山学院第1代校長)
学生伝道

●D. C. グリーン(外国人宣教師)

●J. L. アメルマン(外国人宣教師)

●G. H. F. フルベッキ(外国人宣教師)
開成学校教師、明治学院神学部教授

●三浦 徹(キリスト者)

●海老名 弾正(キリスト者)

●小崎 弘道(キリスト者)

●木村 熊一(キリスト者)

●新島 襄(キリスト者、同志社大学設立)

●石本 三十郎(明治学院初理事員)
プリンストン神学校

●岸田 吟香

●新島(山本)八重
(同志社大学設立者新島襄の妻)

●沼間 守一(日本人教師)
東京土佐藩英学塾

●千村 五郎(日本人教師)
東京土佐藩英学塾

●J. H. バラ(外国人宣教師)

●小川 義綏(キリスト者)

●篠崎桂之助(キリスト者)

●J. C. ヘボン(外国人宣教師)
明治学院初代総理

●井深 八重(井深梶之助の姪)
ハンセン病者に仕えた看護婦、
ナイチンゲール記章を受章

●都築 馨六(学友後の男爵枢密院顧問)
横浜市学校

●松平 定教(学友・旧桑名藩知事)
横浜市学校、ブラウン塾

●駒井 重格(学友)
横浜市学校、ブラウン塾

●押川 方義(学友・J. H. バラ門下生)
ブラウン塾

●熊野 雄七(学友・J. H. バラ門下生)
ブラウン塾

●植村 正久(学友・J. H. バラ門下生)
東京神学校設立、ブラウン塾、東京一致神学校

●石原 保太郎(学友)
東京一致神学校

●田村 直臣(学友)
東京一致神学校

●瀬川 浅(学友)
東京一致神学校

●W. インブリー(外国人宣教師)
プリンストン大学神学博士
明治学院神学部教授

●島崎 藤村(教員)

●松尾 造酒威(教員・牧師)
明治学院神学部卒

●桑田 秀延(教員・東京神学大学学長)
明治学院神学部卒

●井深 大井深家の庶
ソニー創業者の一人